

# 文化資料館友の会

## ～ともに歩いた20年～



△文化資料館友の会「城下町探訪サークル」の活動風景

文化資料館友の会は、ふるさと亀岡の歴史と文化を学び、仲間との交流や生涯学習の充実に資することを目的に設立され、このほど、20年間の活動を記録したDVDを製作されました。

同会はこれまで、市史を読む会や城下町探訪サークル、カニコ綿サークルや古文書勉強会などのさまざまな活動を展開。中川秀夫会長は20年

の活動を振り返り「友の会は文化資料館とともに歩んできました。歴史や民俗を学習する拠点としてはもちろん、まちの人々の多世代交流と絆を生み出す友の会を、今後も50年、100年と続けていきたい」と話されました。

また6月4日には、文化資料館の未来の姿を話し合う、第一回「夢資料館フォーラム ～みんなでつくりよう新しい資料館～」がガレリアかめおかで開催されました。

この日参加した永田寛人さん(千代川町・32歳)は、「私たちのような若い世代が、今以上に亀岡のことを考え、語り、未来をつくっていくことが大事だと思います」と話されました。

同フォーラムの第二回目は、7月10日、市役所1階市民



△熱心な話し合いが行われた 第一回夢資料館フォーラム

ホールで、歴史・考古・民俗はもとより、自然や美術、多世代交流も視野に入れた「多分野型資料館とは」をテーマに行われます。ぜひ、ご参加ください。

### 地域力の向上 功績をたたえて



△山田知事や栗山市長らを囲んで記念撮影

6月17日、京都府立府民ホール(京都市上京区)で、京都府開庁記念日記念式典が開催され、馬路町自治会・曾我部町自治会・亀岡地区東部自治会が、市町村自治功労者表彰(地域力再生功労者・団体部門)を受賞されました。

馬路町自治会は、セーフコミュニティ活動に積極的に取り組むだけでなく、馬路町史の発刊と史跡などの地域資源の再発見活動を展開されています。

曾我部町自治会では、文

化祭や人権研修などを実施され、また、地域版ハザードマップの作成に取り組むなど安全・安心のまちづくりに貢献されています。

亀岡地区東部自治会は、安全で安心に暮らせるように、自主防災会による独自の防災訓練や、地域住民の交流を図ろうと、広報紙の発行や研修会を積極的に実施されています。

これらの活動は、地域の活性化だけでなく、亀岡市のまちづくりにつながるものです。これからの亀岡市は、市民の皆さんと一緒に、未来に夢を描けるまちづくりに取り組んでいきます。

## 地域こん談会スタート



△皆さんと一緒に、よりよいまちづくりを進めます(6月22日・稗田野町)

6月22日から、栗山市長をはじめ、市の幹部職員が市内の各自治会へ順に出向いて、まちづくりについて話し合う「地域こん談会」を開催しています。

これは、市民の皆さんと行政がまちづくりについて話し合い、共通した価値観と目標の持つる良好な関係を築いていくことで、心の通い合うまちづくりを進めていこうと、毎年行っているものです。

初日の、稗田野町自治会とのこん談では、石田武夫会長ら地域の役員の皆さんと市職員を合わせて約40人が出席。下校時の安全確保や地域の危険な場所の安全対策などの提案が出され、その問題や課題の解決に向けて意見を交わしました。

栗山市長は「皆さんの意見をしっかりと受け止め、各地域の個性を伸ばすことで、亀岡をさらに素晴らしいまちにしていきたい」と話しました。

こん談会で話し合った内容は、実施できるものは速やかに取り組みを進め、施策として可能なものはできる限り市政に反映していきます。

## やさしい健康講座 第五十七回



亀岡市立病院 外科部長 阿辻清人 専門分野：消化器一般外科、乳腺外科

市民の皆さんの健康に関して、今回は市立病院の医師が、専門分野についてアドバイスをします。

### 正しい傷の手当てについて

暖かい季節になると外傷で受診される患者さんが増えます。外傷と言っても擦り傷、切り傷、刺し傷などいろいろありますが、ちょっとした傷の場合、診療に行こうか迷うことがありますね。もちろん出血が止まらない場合や、刺し傷など破傷風の危険がある場合はすぐに医療機関で受診することが肝心です。自分で手当をする場合はまず傷をきれいに洗いましょ。水道水が使える場合は、水道

水で十分に洗って汚れを取り除くことが重要です。野外で水道を利用できない場合はペットボトルの水やお茶でも大丈夫です。傷をきれいにできれば後は軟膏をつけたガーゼか創傷被覆材(キズパワーパッドなど)を当てておけば自然に治ることが多いです。

昔前までは、傷はイソジンで毎日消毒しガーゼを交換することが一般的な傷の処置でしたが、現在では傷に消毒薬を直接付けることはタブーとされています。消毒薬が正常な組織を障害し傷の治りを妨げるからです。ちょっとした傷のほとんどは自分で手当ができると思われませんが、傷の治りが悪く、腫れや痛みがひかない場合は医療機関で受診しましょう。異物が残っていたり感染を合併している傷はなかなか治りません。